

# 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書

2019年 11月分

国際地域学部 グローバルアプローチ 3年

山下 慎

留学先：台湾 元智大学



Food Festival のステージパフォーマンス

左：自分 右：日本人の先輩

気づけば留学の 1/4 が終わっているという事実に驚きを隠せない今日この頃。山下です。まず台湾の秋冬なのですが、台湾北部は普通に寒いです！日本と変わりません！湿度が高く、風が強い日が多いので体感温度が予想気温よりも大きく下がります。秋物はまだしも、冬物が必要になるとは思っていませんでした。

10月末に International Food Festival というものがあって、バイオリン演奏してきました。写真をもらえたのが11月に入っていたので、一応載せときます。国ごとにステージパフォーマンスが割り当てられていて、趣味がバイオリンということだけで急遽日本人の枠で出ることになった（笑）。人に披露できるほどの腕前ではありませんが、少しは場を盛り上げることはできたようです。「芸は身を助ける」とはよく言ったものですね。

## ・地震の話

先日、台湾に来てから初めて地震を経験しました。弦楽部の全体練習で演奏してる時に揺れを感じたんですが、私は弾くときに体を動かすほうで、その時は「(バイオリン弾くのに)体を動かすすぎてるかな？」程度にしか思っていませんでした。ところが、指揮者が急に「地震だ！」と演奏を中断。そのあと10秒くらい弱い揺れが続きました。ちょっとヒヤッとしました。(あとで調べたところ、元智大学のある桃園市は震度1だったようです。)

でも、同時に興味深いこともありました。弦楽部の同期に中国の地震がほとんどない地域から来てる人がいて、演奏を中断したときに「わっ、地震だ！」と興奮した様子だったんです。人生で数えるくらいしか地震に全然遭遇したことなくて、珍しかったようです。また、後日、フランス人の友達も「人生で初の地震で本当にびっくりした！」と教えてくれました。

台湾も地震が多い地域なので、台湾人学生の反応は日本人と似た感じでした。日本人にとって地震はすぐく身近で危険なものだから、興奮というよりは不安が勝りますが…。でも、思わぬところで文化の違いを見ることができて、興味深かったです。

## ・Cheat（カンニング行為）についてと手段と結果について

11月の中旬に中間試験がありました。その中で、少しくづいたことがありました。試験時間中に堂々とチートをしてる人がいてちょっと戸惑いました。特に、留学生向けの中国語の授業のテストでは顕著でした。最初にリスニングをして、完了した人から監督の学生に取りに来てもらうというテストの流れだったのですが、そこでチートを眼前で目撃。

東南アジアの国のあるグループが協力して、リスニングのパートが終わった人がまだ終わってない人にアドバイスをしていたんです。彼女らは母語で話していたので、私は聞き取れませんでした。前に座っていた人（アドバイスを受けた側）の筆が、そのやり取りのあとで一気に動き始めたので答えを教えた疑いが非常に濃い。(ちょうど私の目の前と真横に

座っていたので、なおさら気になりました。) これはさすがに監督者に目に入って「次話したら失格にするぞ」と一喝が入り、その後は何もありませんでしたが一緒に受けてて気持ちのいいものではありません。加えて、なにも悪びれる様子は皆無でした。

また、普段の小テストの時も当たり前のようにカンニングをしている人間の多いこと！先生が終了の合図を出し、解答を後ろから前に渡してと伝えているのにも関わらず、あるグループの人は縦に並んで席を取り、前の人間が自分の解答見るふりをしながら後ろのやつに解答を見せるといふ、チームでカンニングしていました。「なに卑怯なことしてんの」というセリフがのどまででかかりましたが、後々の人間関係のことを考えて言えませんでした。

ある意味、あらゆる手段で勝利を勝ち取ろうとする、という意味では理にかなっているのかもしれませんが。外国人からは「日本人って全然チートしないね」って言われますし、日本人の先輩にも「チートは別に普通っていう外国人は結構多いよ」と言われました。恐らく、こういうところが日本人は真面目って言われる要因なのかもしれません。私はこれまで「真面目さ」を日本の国民性として挙げるほどのものなのかなと思っていましたが、今回の出来事を通して確かに言ってもいいかもしれないと再認識しました。

これ以外にも、台湾の Youtube の広告で目を疑うものがありました。テスト中に男の子が答えられなくて頭を抱えていると、隣の女の子が紙パックの紅茶を一口飲み、(彼女は髪をフワッとさせてから、) 彼に答案用紙が見えるように用紙を動かす、というリプトン(紅茶)のCMです。これを初めて見たとき、状況を認識するのに時間がかかりました。日本だったら「カンニングをすることを良しとするのか」とかで物議を醸すでしょう。しかし、こちらに来てからすぐの時から何度も見てるので、文化の違いからなのか、そのCMをとにかく言う人がいないんでしょう。

この出来事と自分の思いを留学経験のある友達に打ち明けたところ、「もちろん個人の問題ではあるけど、むしろ日本が異常で、『チート=絶対悪』ではないという感じの国って意外とある。それに、現実問題、どんなにクリーンなやり方でも、結果を出せなかったら無意味。日本は過程を比較的重視するけど、結局は結果を出せなかったら相手にすらされない。」

と、共感をしてもらえるどころか、自分の考えは甘すぎるのだと逆に思い知らされてしまいました。自分の今までいた環境が平和過ぎただけだったということ。だからといって、自らすすんでチートをしようとは思いませんが、自分はどうあるべきかということを改めて考えなくてはいけなくなりました。

少々、重い話が長くなってしまいました。今月分だけでは書ききれないこともあったので、これからまた書いていきます。様々なところで言われていることではありますが、「他を知らずして己を知ることはできない」と言いますが、留学に来てから日々そう思います。

今月は以上です。それでは、また。



台中旅行で行った宮原眼科  
(病院ではなくお菓子屋さんです)